

5. 密源安定確保対策事業について

奈良県家畜保健衛生所 業務第一課

○ 檜本卓也 松田 勇

中西 晶 恵美須裕子

’82年、福岡と沖縄県に侵入したアルファルファタコソウムシ(H. p)は’06年関東地方にまで到達。’88年から門司植物防疫所は天敵となる寄生蜂によるレンゲ被害の低減対策を検討、これを基に日蜂協は’02年、中央競馬会の助成により、畜産技術協会を通じて密源安定確保対策事業を受託。’03年奈良県他3県の養蜂団体が再委託に応募、今年3年1期の2期目の最終年度。その内容は天敵蜂の安定的増殖技術の確立と放飼定着試験の実施、生物農薬の登録を目指すとされた。これまで5年間の成果として、増殖技術のうち効率的かつ省力的なヨーロッパトビチビアメハチ(B. a)繭^{まゆ}の回収法は’07年にほぼ完成。繭^{まゆ}の保存、H. pの餌となるル-サンの栽培法は門司植物防疫所のマニュアルを踏襲。なお、繭の計数は電子天秤による重量とした。’07年の回収結果は10295頭。これは回収方法の改善によるもの。B. a放飼定着試験は大和郡山市額田部北町で’06年3月開始。’06年588頭放出、同5月繭を確認、翌’07年5月第2世代の繭を回収、寄生率12%。